

年頭のご挨拶

元気と笑顔の島づくりを

三宅村村長 櫻田昭正



2019年の年頭にあたり、櫻田昭正村長からご挨拶をいただいた。櫻田村長は、友好都市との関係を深めるとともに、国や都の支援を受けながら、雄山火口の観光資源化を進めることなど、島の活性化のための方策を話された。

新年明けましておめでとうございます。
三宅島ふるさと再生ネットワークの皆様におかれましては、全島避難以降各地で生活されている方々を様々な形で繋ぎ、支援していただきつつあることに対し改めて感謝申し上げます。

さて昨年、三宅村は小金井市との友好都市盟約40周年を迎えました。こ

れを記念し、武蔵小金井駅前に友好の銘板が設置されました。また、伊那市からは長野県天然記念物であり、高遠固有種の「タカトオコヒガンザクラ」が3本寄贈され、生島新五郎の墓石のある伊ヶ谷地区の三宅村コミュニティセンターと神着地区の三宅村ふれあい児童公園に植樹いたしました。今後とも両市との協力関係がさらに深められ、友好関係が絶え間なく新たな高みへと推し進められることを心から願っております。

島内においては、重要課題のひとつである観光

三宅島新報

発行所：三宅島ふるさと再生ネットワーク
〒173-0005
東京都板橋区仲宿2-1
TEL 090-4922-0798
FAX 03-3964-4065
発行人：会長 佐藤就之

事務局便り



新年明けましておめでとうございませう
本年もよろしくご協力をお願いいたします

会長 佐藤就之
副会長 酒井一豊・光安千久子(三宅島支部長)
事務局長・会計 板倉美紀子 世話人一同

振興の一環として、国や都の支援を得て雄山火口の観光資源化を進めているところですが、現在火口付近の遊歩道整備は完了し、待機施設の設置や十分な安全対策の確立を経て、入山に伴う規則の整備等を行い、三宅島の火山島ならではのダイナミックな眺望を楽しみ、体験していただきたいと考えております。

皆さまにおかれましては、今後とも元気と笑顔あふれる島づくりに一層のご理解とご協力をお願いいたします。

結びに、三宅島ふるさと再生ネットワークの事務局及び会員の皆様と三宅島にとって、本年も素晴らしい年となりますよう祈念申し上げます、新年のご挨拶とさせていただきます。

心強い 皆さまからの「ご支援

ふるさとネット会長 佐藤就之



新年明けましておめでとうございます。
年末には、たくさんの方々から温かいご寄付を頂きました。あらためて御礼を申し上げます。

2000年噴火・火山ガス災害から19年目。昭和期噴火発生周期20年前後に入っております。しかし長期火山ガス放出に変化しました。前々回の阿古の噴火溶岩流の大量流出のときに、昭和期の噴火は「青年期」であり続くが、変化も訪れよう

と予測した専門の大学教授もいたといえます。特に全島避難時に島民3千800人中約千人の「帰りたくても帰れない」島民(在京者)がいることを、皆さまに知ってもらうために、情報の提供、訪問・交流活動などボランティアの熱いご支援により継続できました。

「三宅島新報」発行により、東日本・原発問題と関連しながらマスコミの皆さまからの取材などもありました。心強くあり感謝しております。

在京者・島民の皆さま、事務局などボランティアの皆さまのご多幸を祈念いたします。今年もよろしくお祈りいたします。

さらなる活性化を

三宅支庁発行の「管内概要」をもとに、島の状況を考えてみると、まず気になるのは今後の噴火の周期・形態・場所である。2000年噴火から19年を迎える中で重要な問題だ。また、人口問題に関しても三宅島は限界集落の典型といわれる状況で、30代と乳幼児が増えている御蔵島に比べてもよい状況ではない、行政と島民が協力して雇用の創出を図る必要があることがわかる。(佐藤)

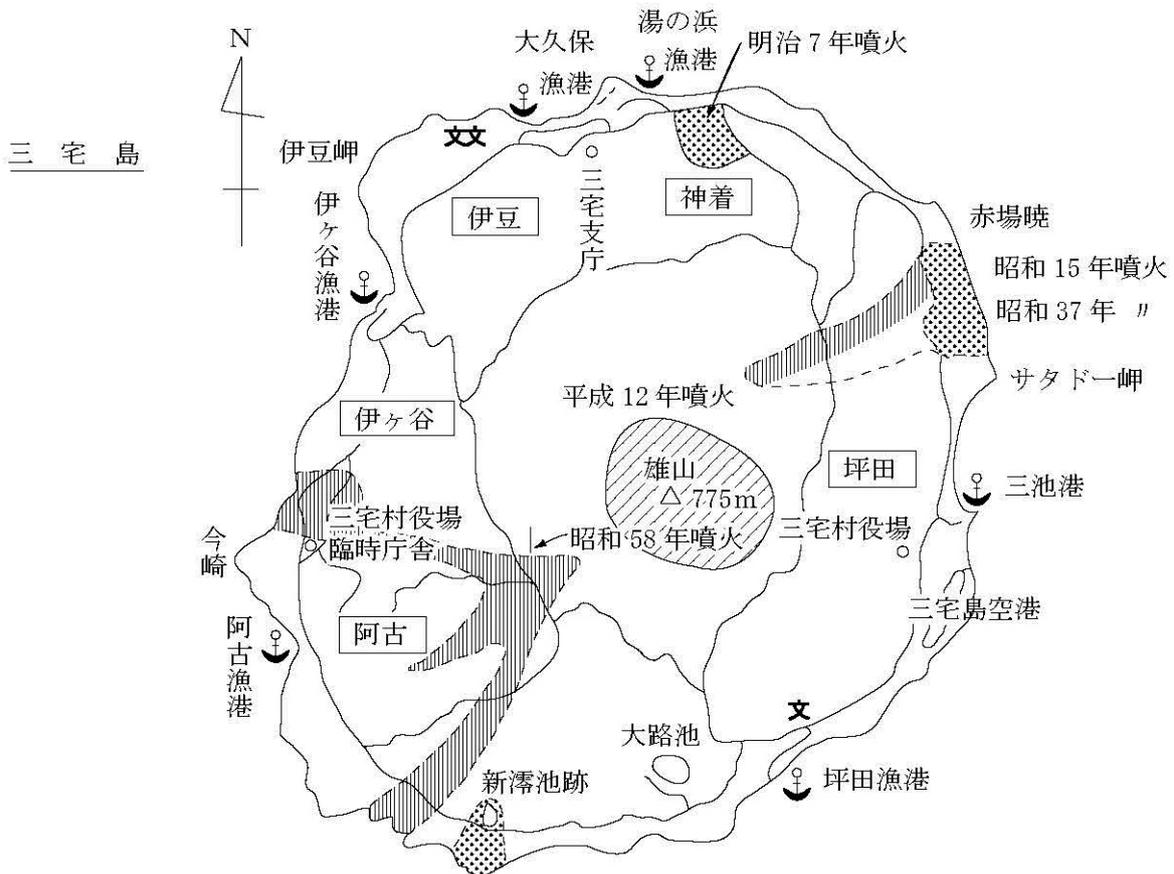
気になる次の噴火 周期・形態・場所に注意

恒例により、東京都三宅支庁発行の「管内概要」平成30年度版を三宅支庁総務課より12月に送付していただいた。ご配慮に深く感謝申し上げます。今後も継続してポイントと思われる点を取り上げていきたい。

三宅島は、「東京から南へ約180kmに位置し、面積55・50km²、周囲38・3kmでほぼ円形、中央に雄山（噴火活動前標高814m、噴火後最高標高775m）がある。本島は、玄武岩質と塩基性溶岩と抛出物との互層からなる複式火山で、頂上及び山腹に数多くの爆発火口を残し、わが国火山中無比と言われている」。そして「平成12年6月26日から火山活動の

活性化が見られ、7月8日には17年ぶりに山頂噴火が発生した。それ以降断続的に噴火が続き、9月4日の全島民島外避難（2日全島避難指示）、4年5ヶ月を経た平成17年2月1日に避難指示が解除され、現在に至っている」。

平成30年6月20日の火山予知連会議は、「2016年5月には、火山性微動とそれに伴う傾斜変動、一時的な火山ガスの増加がみられ、今後とも注意を呼びかけている。2ページの要図（下段図）は大変よくできている。明治7年神着噴火から時計回りで阿古に、5回目まで山頂噴火となった。今後の噴火周期・形態・場所が気がかりだ。



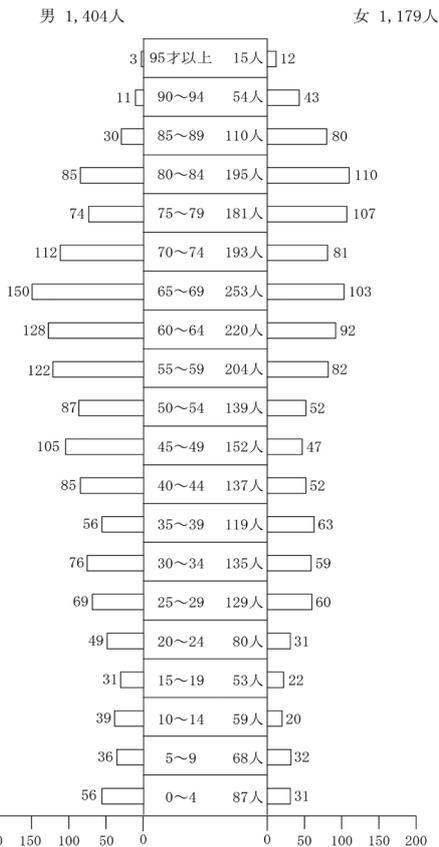
三宅島要図 噴火の年代別と噴火場所に注目したい（三宅支庁管内概要 29年度版から転載）

会長時評

三宅支庁 「管内概要」から見えるもの 行政と島民が協力して

三宅村の年齢構成図

平成29年1月1日現在
人口2,583人 世帯数1,681戸



三宅支庁管内概要29年度版から転載

御蔵は30代が増
人口問題は、日本国全体の問題である。年末には、国会で「改正入管法」を強行成立。「出入国在留管理庁」を新設するなど大転換である。

本紙は、「管内概要」の年齢別人口構成図を重視している。この2図は29年度版のため、30年度版と比較した。今回は、御蔵島村も紹介する。

29年1月1日現在（カッコ内は30年度）、島

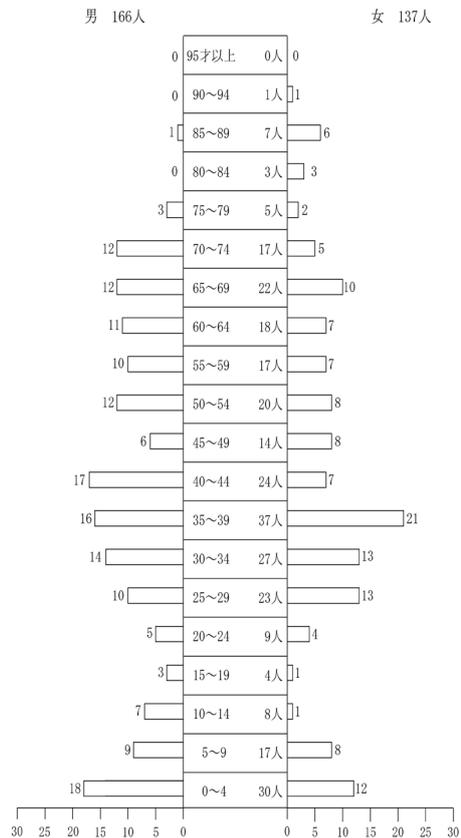
深刻な人口減少
独自産業で雇用創出を

の人口は2千583人（2千538人・45人減）、世帯数1681戸（1649戸・32戸減）。御蔵島村人口303人（324人・21人増）、世帯数163戸（177戸・14戸増）である。

新年早々縁起でもないが、学者先生たちが指摘する三宅型は、西洋の「棺桶型」として日本及び限界集落の典型だという。それに対して御蔵は、働き盛りの30代と乳児・幼児が増えている。

御蔵島村の年齢構成

平成29年1月1日現在
人口303人 世帯数168戸



三宅支庁管内概要29年度版から転載

若い村議にも期待
30年度版の地区別有権者数（平成30年9月1日）は、神着536人（男313人、女223人）、伊豆254人（男133人、女121人）となつて

121人、伊ヶ谷131人（男75人、女56人）、阿古765人（男402人、女363人）、坪田536人（男296人、女240人）合計2222人（男1219人、女1003人）となつて

61人（注1 就業者総数は国勢調査の15歳以上人口による）である。

特徴は、御蔵島村に力が入っている印象を受ける。品名統一で「御蔵島産長軸アシタバ」として安定生産を目指す。若手移住者がツゲ・クワで高価格木製品を生産。東京都の観光整備補助金も急増している。

産業別就業人口は、総人口7千131人、就業者総数3千396人、第一次産業（農業・水産業林業）2千335人、第二次産業（建設業、製造業）181人、第三次産業（サービス業、公務員、卸売業・小売業、運輸・通信業、電気ガス水道業、金融・保険・不動産業）880人、完全失業人口は

三宅島も行政と島民が結束して、雇用の場である産業の三宅島型の特化・差別化が望まれる。村会議員も若返りしている。対話を増やしリーダーシップを期待したい。

三宅高校が創立70周年

記念式典 卓球の上田さん招いて



三宅高校創立70周年記念行事でデフリンピック金メダリストの上田さんを中心に生徒たちが記念撮影

講演会や実演を

東京都立三宅高等学校創立70周年記念行事は、10月6日に盛大に行われた。「学校便り・特別号」などから紹介したい(写真も一部)。

記念行事の内容は、二部構成で学校長祝辞、東

東京都立三宅高校が創立70周年を迎え10月6日には、2013年の夏季デフリンピック女子シングルスで金メダルを獲得した聴覚障がいがある卓球選手の上田萌さん(日立化成・東京富士大学出身)などを招いて記念式典が行われた。同校の生徒数は現在26名。今後も島の若い力を育成する要になることが期待される。

京都教育委員長、来賓及び生徒代表挨拶など。二部から講演会で、日立化成株式会社の上田萌さんの「周りへの感謝」と、東京富士大学の卓球部監督である西村卓二氏の、「上田さんとの出会いそして、どんな選手だったのか」のお話、さらに三宅島卓球クラブとの実演もあつた。

デフリンピックで金メダルを獲得した上田さんと実演した2年生の築穴君は、聴覚障がいがあり、音のない世界で私たちが同じ生活をして、さらに金メダルの獲得の偉業を果たしたそのプレーに、「威圧感がすごかったです」と記している。

記念誌で振り返る

また、「創立70周年記念誌」も作成。70年の歩みから現在に至るまでの歴史と写真を紹介し、1期から70期までの3千人以上の氏名も掲載されて

ご寄付者名

- 町村敬志様 牧田勝彦様
- 吉野文雄様 吉田信行様
- 小久保泰枝様 鈴木節子様
- 古館秀也様 牧田和雄様
- 吉島輝雄様 井上教子様
- 福士敬子様 戸田正人様
- 小曾スミ子様 佐藤宗ノ子様
- 光安千久子様(平成30年10月1日~12月10日)

【ご寄付受付先】
郵便振替口座 00120-3-545036
三宅島ふるさと再生ネットワーク

いる。特別号では、中間均校長先生が「三宅高等学校は、島の中学校卒業生をせめて親元から高等学校に通わせたいという島民の根強い願いから、昭和23年5月に東京都立農芸高等学校三宅分校として開校が認可され、昭和24年2月24日に開校された」が、今日まで3回噴火があり、平成12年では児童・生徒が全寮制の東京都立秋川高等学校(平成13年3月31日で閉校)の避難生活などの苦労を振り返っている。

三宅島高等学校の生徒数は、現在では男子13名、女子13名合計26名である。

「管内概要」平成30年度版は、進路状況(卒業年度)20年度にて「島内」

編集後記

あけましておめでとうございます。昨年は皆様のご協力により無事に「三宅島新報」の編集をすることが出来ました。ありがとうございます。

平成もまもなく終わりを迎えますが、これからも皆様のご期待に応えられるような三宅島の情報発信の継続に努めていきたいと思っております。

(DTPA一同)

自営・その他4、就職1。「島外」進学13、就職。その他1人となっていたが、22年度以降は島内就職1人、27年度の自営・その他1人で8年間で2人に止まり、他は「島外進学・就職・その他」で、10年間で、119人が島外となっている。

「三宅島新報66号」佐久間敏明氏の提言の様に、島内で起業できる「農地耕作地」などの無償提供・投資などが都・村で実現できるかが緊急課題であることを、再度、強調しておきたい。